

## 財政通信 No.38

久々の投稿となってしまいました(-\_-;)。そんなのやっていたよねーと思っている職員。新規採用職員は初めて目にしますよね。日々の業務にくわえて、新型コロナウイルス感染症対策に忙殺され、それどころじゃないよという職員が大多数と思いますが。9月議会が閉会し、さあ、夏休み消化だ~と思っていたら、次の課題が…。皆さん、くれぐれも健康には留意して、力を合わせてチームRYUGASAKI頑張ってください。

前回の投稿から、財政家も大分変わりました。大ベテランの家長が部長へ、財政家から家長に昇格して異動していた、こちらも大ベテランtが家長としてカムバック。前回の投稿を担当したh主幹が異動(痛っ)、農業政策家からf主幹を迎えました。メンバーは変わりましたが、財政家2021を今後ともよろしく願いいたします。

今回の投稿は、オリンピックが終わり、夏の高校野球が終わり、TOKYO MER~走る緊急救命室~が終わり、次の楽しみ、勇気をもらうものを探しているKが担当します。

決算の財政家のいつものやりとりです。

家長:新型コロナウイルス感染症対策が大変な1年だったね。決算状況はどうだ?

G員:決算規模が凄いですよ。一般会計360億円ですよ。100億増です。定額給付金の77億円(皆さん、何買いましたか。私は、こどものリモート用PCなど。いつの間にか無くなった。)をはじめとしたコロナ対策に約90億、ごみ処理施設と、し尿処理施設の設備改修にも多額の投資がありましたので膨らみましたね。

家長:収支状況は?

G員:形式収支が11億3,300万円、次年度の繰越財源を除いた実質収支が10億4,200万円です。昨年度と比べると、形式収支は、1,300万円の増、実質収支が2億7,400万円の増です。

家長:昨年度からは良くなったように見えるね。

G員:そうですね。見えるけど、楽観は全くできないですよ。市税は、コロナの影響が最小限に収まった感じです。感染拡大の長期化で、いつまで、どの程度の影響がでるのか見通し立てるのが非常に難しいですね。地方消費税交付金が税率改正の効果で前年度から3億円増えていますが、景気動向も注視していかないと。しかも、コロナ対策の財源調整で12年ぶりに財政調整基金を取り崩しました。減収補てん債も発行しました。また、工業団地拡張事業の分譲地の売却が所管課の踏ん張りで完了したので、剰余金を一般会計に戻してもらいました。歳入環境は、どっしりしたものでないのが実情です。

歳出も、新型コロナウイルス感染症対策経費は、ほとんど国からの補助金で手当されましたから。

今後、新たな財政需要が出てくると思われますし。

家長：う～ん。暗くなってしまうけど、収納率も上がっているし、ネーミングライツとか新たな財源も創出してきているし、みんな頑張ってくれているよね。

家長：それで、財政指標は？

G員：はあ～(タメ息)。経常収支比率ですよ。93.2%。前年度比1.6ポイント改善です。

G員(f)：経常収支比率ってなんですか。

家長：経常収支比率は、地方税とか普通交付税、地方消費税交付金などの経常的な一般財源(分母になります)がどのくらい経常的な経費(分子になります)に充てられているかを示す指数だよ。これが、高いと財政構造が硬直化して、財源に余裕がない、弾力性が低いということになるんだ。ちなみに、93.2%は県内でどのくらい？

G員：44市町村中、下から数えて10番目です(-\_-;)。ちなみに昨年度は12番目。改善しても、この位置です。改善の主要因は、決算収支でも触れましたが、地方消費税交付金の増収、つまり、分母が増えたということです。市税は、法人税割は税率の改正やコロナの影響で、1億5,000万円減収ですが、固定資産税が8,500万円、所得割も2,200万円増収し、全体では101億8,000万円でなんとか、前年度と同水準を維持です。

家長：コロナの影響で市税収入が心配だったけどなんとか維持できて良かったね(^)/。経常経費、特に義務的経費はどうだい？

G員(f)：あのおー(-\_-;)。義務的経費って？

家長：義務的経費は、人件費、扶助費、公債費の削減が難しい硬直性の高い経費のことっ！

G員(f)：メモっておきます。

G員：人件費は、会計年度任用職員の導入で2億円程度の増です。公債費は、償還が進んで減少していますが、義務的経費は増えましたね。

家長：そうだよな～。会計年度任用職員の導入で人件費が増えるとは予算要求のときに言っていたもんね。それを考えると、地方消費税交付金が増収したとはいえ、よく改善したよね。

G員：そうですね。だけど、コロナの影響で、施設を休館したり、出張がなくなったりしたことで、一時的に委託料や光熱水費などのコストが減ったことも少なからず影響していますね。いち早く終息し、マスクの要らない生活を取り戻したいですが、数値的には、上昇要素になり得ますよね。やっぱり、経常経費を見直していかないと、安定的な財政運営が難しくなります。

家長：そうだよな。ピンチの後にチャンスあり。これを契機に施設の在り方や、事務事業の抜本的な見直しを進めていくことが必要だね。とくに2022年度以降、いわゆる「団塊の世代」が後期高齢者である75歳以上になり、高齢化が進展すると言われているし。施設の老朽化対策もやらないと。気候変動対応も。定住促進も。もちろん、コロナ対策は最優先。ポストコロナを見据えた取組など課題は山積。すごいときに、家長に戻ってしてしまったなあ…(´;ω;`)ウツ…。

G員：新学校給食センターや新保健福祉施設の建設などの大規模事業もありますよ。おい、G員(f)どうするっ。

G員(f)：施設の建設は地方債が発行できます。地方債担当していますので(^)/。財源はなんとかありますよね。

G員:地方債の償還は公債費。借りた金は返す。義務的経費に当然なってくるよ。

G員(f):そうですね(‘◇’)。返せなくなったら大変じゃすみません。

家長:先人たちの知恵と努力で、平成18年度に592億円あった将来負担が358億円まで圧縮できたわけだからね。でも、公共施設・インフラの更新や再編成は必ず必要になってくるから。過度な将来負担を避けつつ、必要な投資はしっかりとやっていかないとね。

G員(f):はいっ。

家長:基金は?前にいたときは積み立てができていた時期もあったよね。積立金残高比率も目標値を超えてたしな。

G員(f):積立金残高比率って?

家長:積立金残高比率は、基金残高の標準財政規模に対する割合。市は、当時の県の中位だった35%を目標値としているんだよね。

G員(f):すいません。標準財政規模って?

家長:地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模だよ。地方税や地方譲与税などの理論上の収入見込みに普通交付税と臨時財政対策債を加えたもの。あらゆる指標の基礎になったりするから覚えておかないといけないね。令和2年度は154億5,500万円。前年度から3億7,300万円増えたね。地方消費税交付金の増が大きいね。

G員(f):メモしておきます。

G員:それがですね。目標値を下回ってしまいました。ちなみに、県内44市町村で28番目です。ふるさと龍ヶ崎応援寄附金を原資としてみらい育成基金に2億1,800万円積立てたんですけど、コロナ対策の財源調整で財政調整基金を5,000万円、地方債の償還財源として減債基金を1億5,000万円取り崩しました。また、分子となる標準財政規模が増となったことも重なり、34.6%にダウンしてしまいました。

家長:そうか。でも、こういうときのための財政調整基金だから、ある程度は仕方がないし、覚悟していたからね。コロナ対応で現場は大変だよ。こういうときだからこそ、財政家が右往左往せず、市民や事業者が困っている、いつやるの今でしょ(古っ)ということは遠慮せず要求してきてくださいと、どっしりと構えていきましょう。ただし、財政規律を緩めてなんでもやるというのはだめ。現場の意見を十分聞きながら、俯瞰して判断。スピード感を持ってね。

G員(f):やばいところに異動してきちゃったなあ。

G員:大丈夫か、G員(f)。なんか焦っていないか。大丈夫、最後は家長が責任もって判断するから。その判断材料を集めるのがG員の仕事の1つだよ。

家長:おいおい。よろしく頼みます…。

家長:あんまり聞きたくないんだけど。健全化判断比率はどうなった(汗)?

G員(f):すいません。健全化判断比率って。夕張市が財政再建団体になったことは知っているんですけど。

G員:「地方公共団体の健全化に関する法律(通称:財政健全化法)に基づき、毎年算出することになっているもので、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4

つの指標を「健全化判断比率」として定めているんだよね。また、下水道などの公営企業は資金不足比率を算出することになってるよ。

G 員(f):財政再建団体になったら、国の管理下に入って、独自の事業ができなくなる、市民負担も大きくなる、給与削減は当然って聞いたことがあります。気を引き締めていきます！

G 員:健全化判断比率は、実質公債費比率は、5.6%(早期健全化基準:25.0%)と前年度から0.3ポイント上昇しましたが、健全段階と判断できます。

家長:ホッ。でも、これからは老朽化が進んだインフラや施設の更新が増えてくるから、こういった、投資を適切にできるよう財政運営を行っていかないとね。

G 員一同:はいっ。

家長:さて、当初予算の要求だね(ボソッ)。

G 員:なんか言いました?というか、聞こえましたよ。やっぱり、そこは避けて通れない感じですね。

家長:例年、10月スタートだよ。国の概算要求額も、4年連続で過去最大みたいだし、そろそろ本格的に考えていかないとね。

G 員:そうですね。総務省の仮試算では、地方税が5.4%増収すると。地方交付税は、同水準を確保するが、臨時財政対策債は40.2%減と大幅に抑制する見通しです。

家長:分かってはいたけど、苦しいね。地方税が本当に推計通り上振れするか不安だし。各課には、財政状況を理解してもらい、自ら、選択と集中、メリハリのある予算編成への協力が必須だね。

G 員:地方自治法第208条第2項「各会計年度における歳出は、その年度の歳入をもつてこれに充てなければならない」、原則、年度に必要な支出の財源は、同じ年度内の収入で賄うもの。「入るを量りて出ざるを為す」ですよ。一般財源の枠配分で、財源意識が定着してきていると思いますが、現場は大変ですよ。市民からこれまでと同様のサービスを維持することが求められる一方で、社会ニーズの多様化で、これまで以上のサービス拡充や新たな課題にも取り組んでいかなくてはなりませんから。そんな中でも、事業の見直しをお願いしなくてはなりません。

家長:そうだよ。でも、現場の視点から、この事業は必要ないんじゃないか、効果が薄いんじゃない、見直すべきじゃないかと思っていることはまだまだあると思うよ。予算編成ではこういう意見を大切に、議論していかないとね。また、毎年毎年、これどうするって思っていること、先送りしてきたこと、このような議論にも決着をつけ、限られた財源を有効に配分する予算編成としていきましょう。

G 員:了解！じゃあ打ち上げですねって、無理ですね。前回の飲み会っていつだったんだろう…。

最後までお付き合いいただきありがとうございました(^^)。

次号、なるべく定期的に発行できるように頑張ります。

詳しい内容は、市公式HP「市政情報」の「財政・各種計画・行政改革」コーナー、「予算・決算・財政情報」をご覧ください。